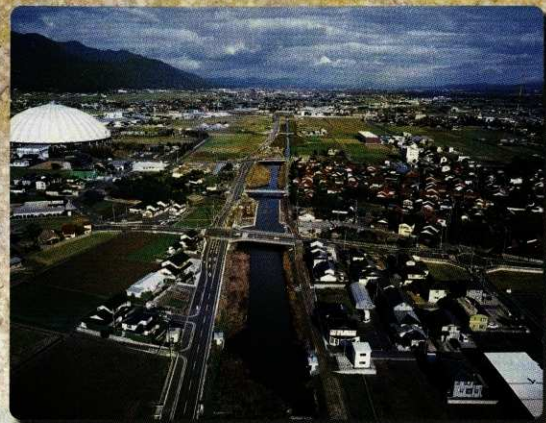


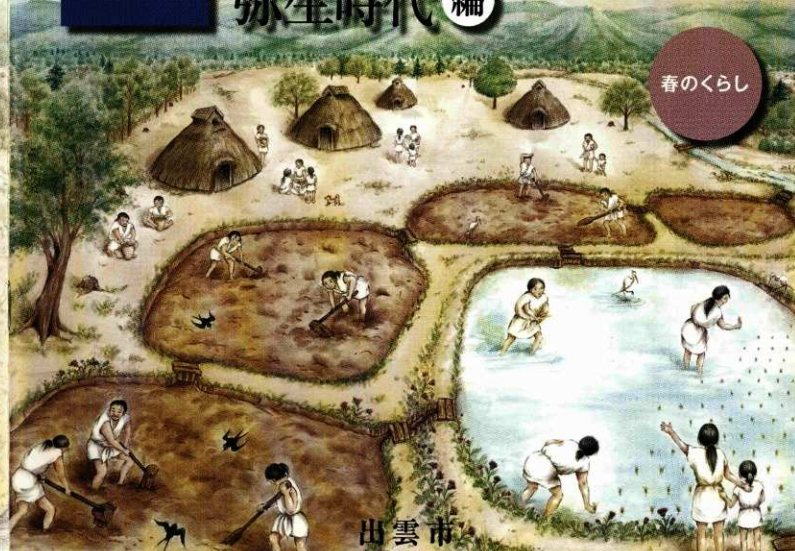
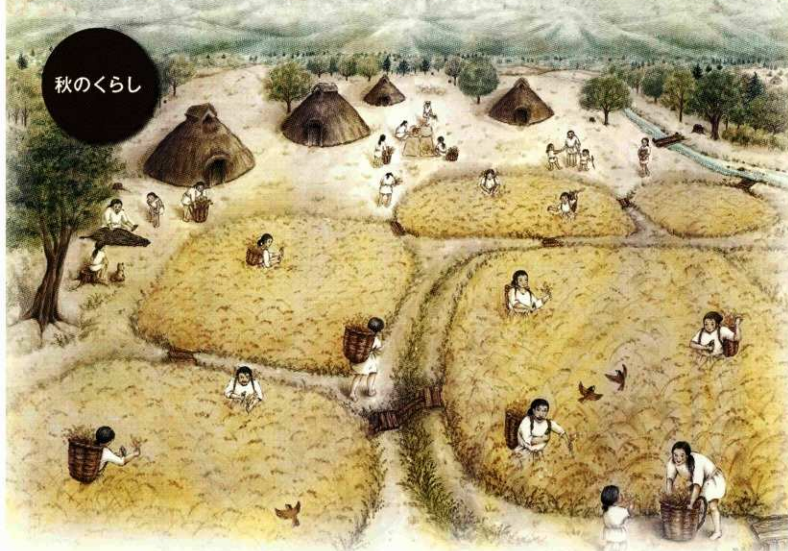


# 矢野遺跡

— やのいせき —



弥生時代編



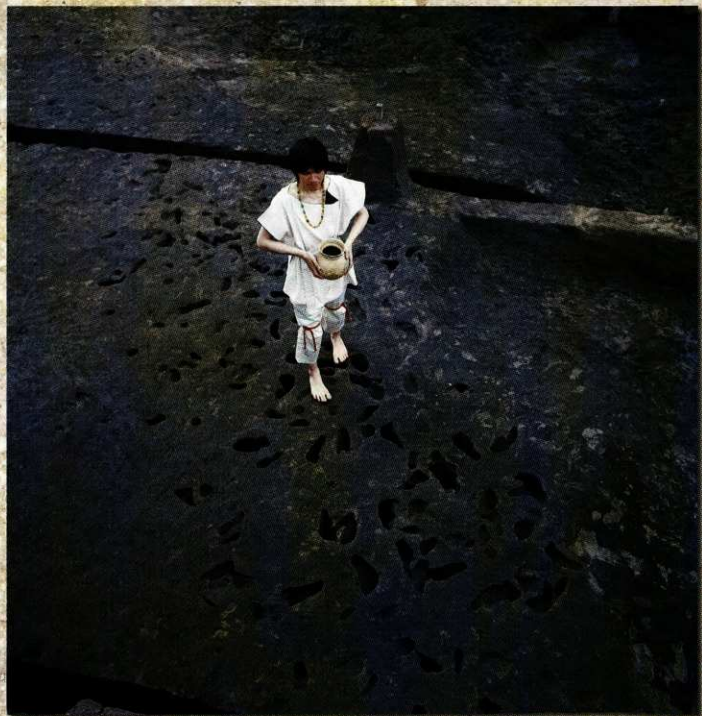
## 矢野遺跡の概要

矢野遺跡（出雲市矢野町）は、出雲平野の中央部、標高約4mの微高地にあります。出雲平野で米作りが本格的にはじまった弥生時代前期（約2500年前）から現代までたくさんの人たちが住んできた場所です。

特に、弥生時代に流れていた川や溝、土坑からたくさんの土器や石器などの遺物が出土しています。矢野遺跡の弥生人は自ら道具類を作り出し、米を主食に生活していたようです。

そして、弥生時代中期～後期になると九州や瀬戸内の土器などが出土するようになり、他地域の人と交流を深めていたことがわかります。また、ガラス製や碧玉製の勾玉や管玉などの装飾品から、リーダーの存在が推定できます。

本バンフレットは、平成13年～平成20年に実施した新内藤川改修工事に伴う発掘調査のうち、特に重要な成果があった弥生時代についてまとめたものです。



■ 川岸に残った古代人の足跡



■ 弥生～平安時代に流れていた川跡から出土した大量の木器と流木



■ 溝から出土した弥生前期の土器

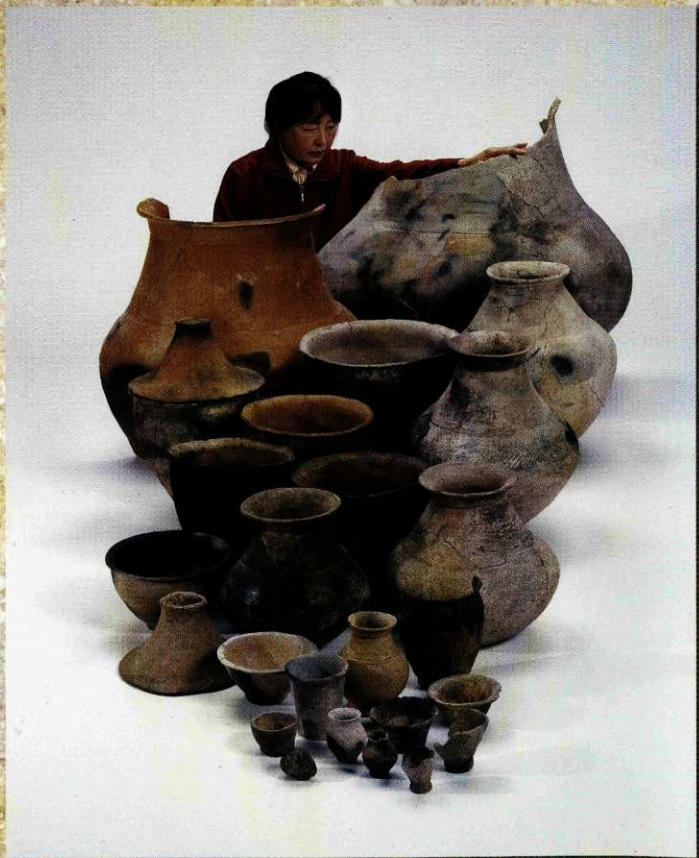


■ 土坑から出土した弥生前期の土器

# 出雲に米作りが伝わった!

約2,500年前(弥生時代前期)から矢野遺跡で本格的に米作りが始まりました。米を貯蔵する壺、米を炊く甕、米を炊く時に

使った蓋、食べた粟の蓋、食べ物を盛る鉢や高杯などがたくさん出土しました。一番大きな壺は何に使ったのでしょうか?



■ 川跡から出土した弥生前期の土器



■ 米を炊いた甕と蓋



■ 吹きこぼれた跡が残る甕



■ 米を貯蔵する壺



■ 黒と赤で塗られた壺



■ ヘラで模様を刻んだあと、黒と赤で塗られた壺



■ お祭りで吹かれた土笛



現在の稲穂



■ 9粒の籾の圧痕がある弥生前期の土器の底

# 弥生時代に使われた道具

矢野遺跡では、土器や石器、木器、骨角器、管玉などをつくっていました。いろいろな種類の道具をつくるムラは出雲

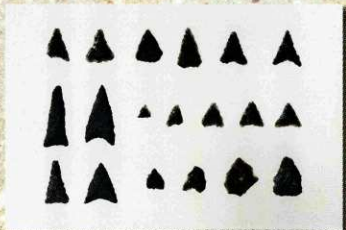
平野では少なく、弥生時代の矢野遺跡が特別なムラであったと考えられます。



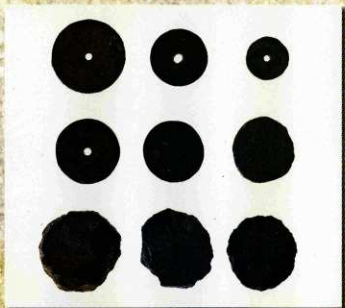
■ いろいろな石の道具(木を切る・削る、土を掘る、稲穂を揃む…)



■ 黒曜石の原石(隠岐産)から石鏃などをつくる



■ 狩猟につかった石鏃 (未製品と完成品)



■ 糸を紡ぐ紡錘車 (未製品と完成品)



■ 管玉などのアクセサリーの未製品



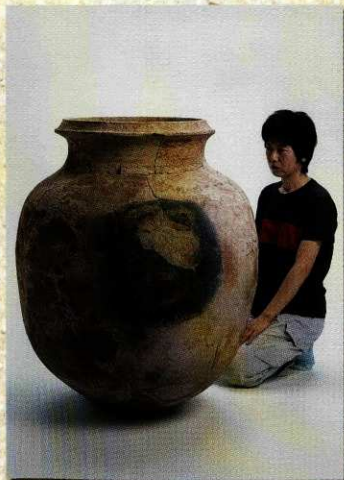
■ いろいろな木の道具(鉾・スコップ、楫、容器、ソリ…)



■ シカ(左)とイノシシ(右)の骨



■ 石とガラスのアクセサリー(勾玉・管玉・小玉)



■ 超大型の壺(「お箱」かな?)



■ 発掘作業のようす—弥生時代のくらしがよみがえる—